

# とうざん



有田町立有田小学校 校長 松尾 寛



旧校舎跡地に咲く花

## 次のステージに向けて、はじめる！はじまる！

運動会を終え、有田っ子は次の活躍の場を求めて動き出しました。以下のシートは、6年生が運動会のふり返しをして、気持ちを切り替えることができている、素晴らしい内容です。運動会では大変さと責任を学び、これから有田小学校のリーダーとしての覚悟が養われたことが読み取れます。

運動会のふり返し

6年 松尾 (草場 結子)

〇応援リーダーとして、練習や本番を通して、学んだことを書きましょう。

(応援の内容決め、練習、道具作り、先生達からのアドバイスなどから)

やはり一番は、6年生としての大変さと責任です。

五月の運動会に初めて、計画期間も短く練習事前の日は毎日急いでなんとか応援歌をつくり上げました。最初は応援歌なんてすぐつくれると思っていた。でもやってみると、歌詞を覚えたり、ふりつけをいれたりするのが大変でした。そして練習期間中も大変です。一年生が遊んだり、思いつく限りの遊び、時間におわれる毎日(みんな)と責任がいっぱいでした。

6年生は学校のリーダー。そしてみんなのお手本。

もう一歩進んでたい。6年生として、実感してきました。とても大変だけれど、楽しいと思うけど、

学校のため、全校のためにがんばりたいです。

次は修学旅行だー!! がんばるぞー!!

〇応援リーダー以外で、自分の係の仕事や役割でがんばったことを書きましょう。

(係・言葉・パネル・スローガンなど)

運動会準備です。私達の仕事は石捨てでした。最初は、本当地道な作業だと思っていた。でも石をさがしているうちに、だんだん楽しくなりました。普段、地面をじくじくみないけど、みても不思議な物が落ちていたり。おもしろい発見がたくさんありました。

〇心に留めた様目や競技について書きましょう。(いくつでもオッケー)

親子競技「みんなに大きくなりました」

6年生にしか味わえない楽しさがあった。

「玉入れ」

まさかの同点!! えんどう戦なんて初めてだった。

「徒競走」

バスケで勝った? とてもびっくり... なんと、1位や

また、次のステージである修学旅行に向けての意欲が感じられます。前回の「とうざん」の中で、運動会は大切な教育の場とお伝えしたのは、このように学校行事によって子ども達は育っていきます。勿論、毎日の学びや友だちとの関わり、学校生活も大切です。どうぞ、これからも佐賀県の教育のテーマである「ほめるから、はじめる、はじまる。」を学校と家庭、地域が手を取り合って実現していきましょう。

これからの次代を担う、子ども達に必要なのは、「自分で考え、判断し、行動する、チャレンジする骨太でたくましいこどもを育てるために、学校だけでなく、保護者や地域とも連携して、子どもの主体性を尊重していきます。」と、学校教育の目標が述べられています。

有田小学校は、4月のPTA総会で私がお伝えした、個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業改善へ向かっていきます。どうぞ、これからも有田小学校の良き応援団としてお力添え下さい。

# 学習者用端末の活用に向けてタイピングタイムを実施

個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ、学習用具の1つである学習者用端末(タブレット)の文房具化(いつでも、どこでも だれでも使える)をめざしています。そこで、今年度から全学年の子ども達が、朝の時間にタブレットのキーボード操作に慣れるためにタイピングタイムを行っています。

先週の木曜日の朝の時間に、1年生から6年生がそれぞれの技能に応じたタイピング練習を行いました。1年生はタブレットのパスワードを習っているひらがなで入力しました。2年生以上は、キーボード練習用のアプリを使って入力することができていました。4年生は五十音のひらがなを全部の指で入力する練習をしたり、6年生は中学年の頃から練習しているアプリで入力したりしていました。

これから、タブレットを文房具の1つとして児童が選択し使いこなせるよう、タイピングタイムをつづけ、主体的な学びができる有田っ子をめざしていきます。



1年生：担任と教務で指導



2年生：どの指で入力するかを練習



3年生：自分に合ったコースを選択



4年生：五十音ひらがな入力を練習



5年生：練習アプリを使って入力



6年生：ブラインドタッチで入力

## 救急救命の講習会を行いました！

毎年度、教職員による救急救命の講習会を行っています。今年度は、有田消防署の久保田さんに来て頂き、実技研修を行いました。子どもが喉に物を詰まらせた場合に背中を叩いて取り除く背部殴打法や、水難事故などで呼吸ができない場合の胸骨圧迫(心臓マッサージ)とAEDの使用を教えて頂きました。学校給食で喉に詰まらせたり水泳指導で溺れたりすることが無いよう、未然防止に努めた上で、緊急の場合は救急隊が来られるまで、適切な救命処置を続けることを確認しました。これからも子ども達の安心・安全を第一に取り組んでいきます。



まず、救急救命士の久保田さんから講習を受け、次に、心肺蘇生法の実技研修を行いました。